

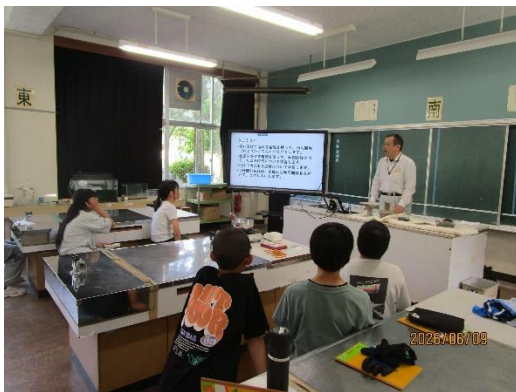
心に残る文化財子ども塾 松江市立秋鹿小学校

1. 活動の概要

6月9日(火)、松江市立秋鹿小学校で、6年生6名を対象に「心に残る文化財子ども塾」を実施しました。

はじめに和同開珎の歴史や作り方を説明したのち、低融点金属による和同開珎づくりを行いました。シリコン鑄型への剥離剤の塗布や鑄型への注ぎ込みを児童にしてもらいました。金属が冷える時間を使って松江市内の遺跡や古墳について説明するとともに、奈良時代の須恵器に触れてもらいました。みな初めて土器の手触りを感じていました。鑄型から枝銭を取り出し、枝銭からの切り離しはスムーズにできました。その後は夢中になって和同開珎を磨き、ピカピカになりました。

2. 活動の様子





3.活動を終えて

1) 児童の皆さんから

- ・和同開珎づくりをして、初めて鉄(低融点金属)がとけるところやつくったりすることをしたけど、楽しくできたので良かったです。古代の衣装や土器などをさわったり持ったり、着てみたりして現在と昔はとてもちがっておもしろかったです。
- ・和同開珎を作ったり磨いたりすることが一番心に残った。昔の衣しょうをきて、すごく昔のイメージが湧いてきました。
- ・和同開珎作りでは、ぴっかぴかになるまでいっしょうけんめいみがいたこと。古代の衣装体験では、みんなと楽しくできたし、色々な時代の衣しょうをすることができた。
- ・無文銀銭や富本銭のことも知りたいし、こんど古墳をみにいきたいです。

2) 先生から

- ・身近な湖北地区の遺跡について教えて頂いたこと、そしてあらゆる体験をさせて頂いたことです。こどもたちがこれらの学習に興味をもったこと、本当にありがとうございました。
- ・地図上で松江地区の遺跡の紹介をされる際、もっとその遺跡の画像があるといいかなと思いました。

3) 埋文センターから

事前に訪問して、実施場所を確認しておいたので、当日の準備がスムーズに行うことができました。当日は予定していたスケジュールで行うことができました。低融点金属が溶けた時や、枝銭から1枚1枚をペンチで切り離れた時の表情が印象的でした。また、一生懸命和同開珎を磨いていた様子をほほえましく感じました。